

夭折した軍医

—牛丸冬文書—

牛丸冬（うしまる ふゆ 1871～95）は、明治期の陸軍二等軍医です。秋田県士族の家に生まれ、第二高等中学校の医学部を明治24年（1891）に卒業後、同27年の日清戦争に従軍しましたが、軍医としての生涯は苦勞の連続でした。彼は、朝鮮で赤痢にかかり、広島陸軍病院で全治した後に、翌28年に遼東半島に赴き、さらに台湾に転じました。そこで再び罹病し、この年20代半ばで逝去しました。



秋田市の千秋公園には、彼を偲ぶ高さ約2.5mの「陸軍軍医牛丸君碑」が残されています（明治32年建立）。「従軍した衛生部将病没者23人のうち、贈位されたのは牛丸軍医を含む3人のみ」とあり、優れた人材だったと考えられています。

2016年に御子孫から寄贈された全207点は、①文書99点、旧蔵品4点、②写真104点から成ります。中でも、日清戦争に従軍する途中作成した資料は、戦地での体験を知ることの出来る貴重なものと思われます。戦後70年を過ぎ、戦争体験者も数少なくなりましたが、こうした時代が日本にもあったことの記録として、永く伝えていきたいと思ひます。